

2005年3月9日(水)

13:00~14:30 グループ研究:コンソーシアム

参加者:小野(東邦大学) 坂下(法政大学) 伊藤(立教大学)

欠席者:星野(跡見学園女子大学)

1 個人分担の発表(それぞれに配付資料あり)

「地域コンソーシアムにおける人材育成の状況一覧」について(坂下)

「身につけたい専門性についてのアンケート(案)」について(伊藤)

上記、の資料について検討を行った。「コンソーシアム」というテーマのもと、どのようにまとめていくかが、ポイントである。また、コンソーシアムを考える場合、第一に「望ましい形」はどうあるべきか、という観点が必要であることが確認された。

2 コンソーシアムの形態と活動内容について

コンソーシアムの形態およびその活動について、分析を行うと3つ分けられる。具体的には、地域、主題、共同購入のためにコンソーシアムが形成されている(小野)。このグループ研究では、この3つ形態のうち、どれをやろうとするのか。仮想コンソーシアムを構想する場合、その目的は何かの明確化が不可欠である。また、メンバー校以外に、準メンバーとして他の図書館を組み入れた形で、仮想コンソーシアムを構築する必要があるのではないかと意見がだされた。

3 研究方法についての視点について

(1) 1図書館では解決できない問題は何か。これの抽出からスタートする。

(2) 手順の1つの例としては、仮にアウトソーシングの問題を取り扱おうと仮定した場合、研究分科会参加館に、実施の有無、どの程度行っているかについて、アンケートを行う。このアンケート結果をもとに、アウトソーシングをしていることの問題点は何か、あるいは実施の意向はあるが、躊躇させている理由は何なのかを抽出する。コンソーシアムによって、で抽出された問題をどう解決していけるかのモデル・プランを作る。が考えられる。

(3) コンソーシアムに関する論文は共同購入に関するものや、自館が参加している地域コンソの事例報告などがほとんどで、広い意味でのコンソーシアムを系統的に分析、評価したものは少ない。そこに研究の意味をおくことも考えられる。

4 仮想コンソーシアムについて

5校ぐらいで考えていく。については、コンソーシアムの形態・活動内容について具体的な活動内容(協力事項) 協力により補完できる要素、事例等を網羅的に把握するためにアンケートをとることが話し合われた。(コンソーシアムという名称ではないが、複数校で協

力体制をとっている事項も含むこととする)。

最終的に、コンソーシアムを成功させる(成り立たせるではない)要素は何かを、抽出、提示できることを目的とする。

5 次回までに行うこと

- (1) 「コンソーシアムの形態と活動内容」(小野)を叩き台にして、各自アンケート案を作成する。(重点的に各自行う)
- (2) 研究報告書(論文)の骨格、構成について、および具体的な報告書作成の流れについて各自、考えてくる。

以上